

氏名	西原龍司		
学位の種類	医学博士		
学位授与番号	乙第1595号		
学位授与の日付	昭和60年9月30日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者(学位規則第5条第2項該当)		
学位論文題目	悪性リンパ腫の化学療法に関する研究 第1編：マウス自然発生リンパ肉腫(LS-1)をモデルとした 悪性リンパ腫の化学療法に関する検討 第2編：進展期悪性リンパ腫に対する多剤併用療法の治療成績 ：長期観察による検討		
論文審査委員	教授 太田善介	教授 長島秀夫	教授 折田薫三

学位論文内容の要旨

悪性リンパ腫の至適化学療法の確立のため以下の研究を行なった。第1編では、マウス自然発生リンパ肉腫(LS-1)を用い、本腫瘍がヒト悪性リンパ腫化学療法の実験モデルとなり得るか否かを検討した。ヒト悪性リンパ腫に対し活性を有することが知られている各種薬剤のLS-1に対する抗腫瘍効果を検討した結果、LS-1の薬剤感受性はヒト悪性リンパ腫のそれと良く相関した。2剤併用実験の成績は、過去の臨床成績とよく相関し、また最近得られつつある臨床成績を予言するものであった。本実験系はヒト悪性リンパ腫化学療法モデルとして有用と思われた。第2編では進展期悪性リンパ腫126例に対する化学療法治療成績を長期観察により検討した。完全寛解率はホジキン病(HD)82%(14/17)、非ホジキンリンパ腫(NHL)53%(58/109)であった。このうち16例(HD6例、NHL10例)は治療中止後2年以上無再発のまま経過中であり、治癒が期待されている。こうした成績は、進展期であっても本疾患に対しては治癒を志向した強力な化学療法を行なうことの妥当性を示すものと思われた。

論文審査の結果の要旨

本研究は悪性リンパ腫の化学療法を実験的ならびに臨床的に研究したものである。マウス自然発生リンパ肉腫を用いた化学療法の成績はヒト悪性リンパ腫のそれとよく相関

することを見出してこれがヒト悪性リンパ腫化学療法モデルとして有用であることを証明した。又進展期悪性リンパ腫126例に化学療法を行いその結果を長期観察して高率の完全寛解例を得かつ治癒したと思われる例も認め、強力な化学療法が悪性リンパ腫の治療として妥当であることを示した。これらの成績は学術上にも臨床的にも価値あり、よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。